

2007年の10大ニュース

No. 10

カリフォルニアから遠隔講義 2007-10-02

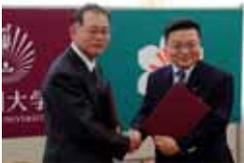


「国際的視野を持ち、社会を変革しリードする人材」の育成を目的に、米国シリコンバレーのカリフォルニアオフィスからの遠隔講義「九大生よ、リーダーになろう・リーダーシップ論 - 起業家精神の勧め - 」が九大生を対象に開講されました。第1回は、梶山総長と、松尾カリフォルニアオフィス所長が語り合うのを、学生が画面を見て受講する形で行われました。

No. 9

各機関との連携進む

・佐賀県と包括協定を締結 2007-10-16



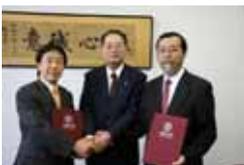
九州大学の知的資源と佐賀県の持つ地域資源を活用して、新産業の創出、地域社会の振興、大学の教育・研究の活性化などを目的として包括協定を締結しました。

・西日本新聞と提携・協力 2007-09-10



九州大学の教育・研究機能と西日本新聞社の報道・言論・媒体機能を提携させ、九州で暮らす地域住民の視点から地域課題の解決策を探り、九州の自立につながる分権型社会の姿を研究、提言、報道し、九州の発展への貢献を図ることを目的に、「提携・協力合意書」に調印しました。

・NHKの現場スタッフが講師に 連携授業開始 2007-05-30



九州大学高等教育開発推進センターとNHK福岡放送局は、全学教育科目として、NHKの職員が講師となり、テレビ放送の最新事情や公共放送の役割、放送現場仕事内容などを解説する授業『事実を捉え考える - NHK福岡放送局との連携授業 - 』を設けることになりました。

・釜山大学校との共同授業を開始 2007-08-23

未来の日韓関係をリードする若い世代の育成を図るための教育プログラムの実施を目的に、今年度後期から双方での共同授業を行っています。

2007年の10大ニュース

No. 8

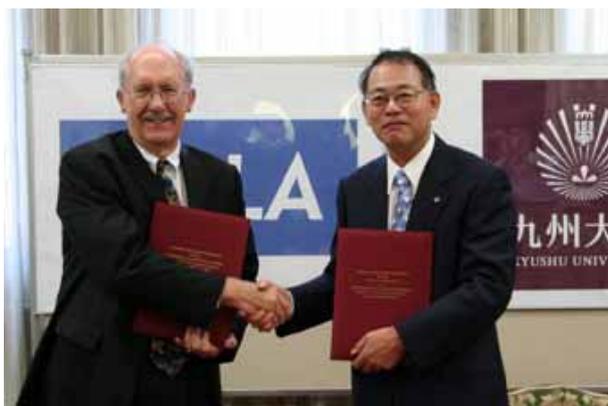
『QUEST - MAP』を策定、大学改革を加速 2007-06-08

九州大学は、全国の大学に先駆けて九大版バランス・スコアカード『QUEST - MAP』を策定し、今年5月からその試行的運用を開始しました。

『QUEST - MAP』は、九州大学が目指している「世界的教育研究拠点の形成」に向けた大学改革の全体像を、一目で分かる戦略マップとして示した、謂わば「九大改革の総見取り図」です。大学の特性である自由と多様性を重視しつつ、同時に教職員一人ひとりが広く改革の内容を理解共有し、全員の参加と共創を促すことを通じて実際に大学改革を動かす「エンジン」としての役割を担います。

No. 7

UCLAと学术交流協定を締結 2007-05-31



カリフォルニア州が20～30年後を見越した技術革新の基盤構築のためにカリフォルニア大学に設置した四つの機構の一つ CNSI (California Nano-Systems Institute) が、本学工学研究院の応用化学部門に連携を打診してきたのを発端として、大学間交流及び、CNSIと応用化学部門との部門間交流協定も同時に調印・締結されました。早速平成20年1月に、UCLAでのシンポジウム開催を計画しています。

No. 6

九大・CNRS・プロヴァンス大・阪大及び核融合科学研究所による協定調印 2007-10-22



九州大学、大阪大学、核融合科学研究所(NIFS)、CNRS(フランス国立科学研究センター)、プロヴァンス大学の5機関は、核融合に関する基礎研究推進と人材育成を目的とした国際連携協定に調印し、「磁場核融合研究に関する国際連携研究所」(LIA)を発足させました。ITERへの応用を視野に置いて、プラズマの輸送現象の電磁効果に焦点を絞った研究や核融合に関する世界的若手育成を行います。

2007年の10大ニュース

No. 5

大学サミット・イン・九州2007 2007-10-27,28



「都市と大学～大学がいかに関域に貢献できるか～」をテーマに、個々の大学の共通課題を議論し、知的存在感のある大学を目指して提言を行うことを目的として開催しました。11か国・12大学が参加し、3つのセッション「学研都市構想」「地域資源としての大学をグローバルに考える」「地域医療と健康問題における大学の役割」に分かれてそれぞれのテーマについて議論を行いました。

No. 4

株式会社日本格付研究所における財務格付について最高の「AAA」を取得 2007-03-30

九州大学は、日本格付研究所における財務格付について最高の「AAA」を取得しました。新キャンパスへの統合移転、病院の再開発という二つの事業を同時並行的に進める中で、大学改革が拍車をかける形でスピードが加速していること、また、「4-2-4アクションプラン」、「5S運動」そして「三位一体の改革」など総長のリーダーシップが十分に発揮されていることなどが高く評価されました。

No. 3

水素材料先端科学研究センター研究棟開所式 2007-11-09



九州大学伊都キャンパスに、水素材料について世界的レベルの総合実験棟が竣工しました。この実験棟は、産業技術総合研究所と九州大学が新しい形の連携・協力の下に研究事業を進めるものであり、水素利用社会の到来に向けて、多くの成果が期待されます。日本の新エネルギー開発の一環として、水素社会到来に向けた高度な科学的知見を要する根本的な現象解析を行うものです。

2007年の10大ニュース

No. 2

東アジア環境問題プロジェクトチームが発足 2007-09-25



2011年に迎える百周年事業の一環として、『東アジア環境問題』に全学で取り組むこととしました。九州大学内の環境研究に取り組む優れた研究者を全学より集め、テーマごとに複数のチームを結成して、中国や韓国等東アジアの主要大学・研究機関、および日本の企業等と環境問題に関する共同研究などの国際間の産学官連携を進めるプロジェクトを開始いたしました。今後、連携の取れている分野での共同研究の進展や、日中、日韓の両国ともに関心ある分野の開拓、支援企業や公的機関への呼びかけなども進めていきます。

中国・韓国の連携研究機関

日本（九州）と東アジア相互の地域のメリット（Win-Win）を目指す
九州大学 国際産学官連携プロジェクト



2007年の10大ニュース

No. 1

「百周年記念事業推進会、同推進会東京部会、同推進会関西部会」設立

2007-2-28 , 7-26 , 11-06



2月28日（水）「九州大学百周年記念事業推進会」設立。会長には鎌田迪貞九州経済連合会会長が就任



7月27日（金）、「九州大学百周年記念事業推進会東京部会」
東京部会長には前田 勝之助 東レ名誉会長（写真左）が就任



11月6日（火）、「九州大学百周年記念事業推進会関西部会」
関西部会長には稲盛 和夫 京セラ名誉会長（写真左）が就任

2月28日（水）、福岡市にて「九州大学百周年記念事業推進会」が設立されました。同推進会の会長には鎌田迪貞九州経済連合会会長が就任しました。また同推進会東京部会及び関西部会もそれぞれ七月と十一月に設立されました。百周年記念事業の実施に向け、法人への募金事業や記念事業に関する助言等を行う学外支援組織として、広く産業界、有識者の方々に設立されており、東京部会長には前田 勝之助 東レ名誉会長が、そして関西部会長には稲盛 和夫 京セラ名誉会長が就任しました。今後、2011年に迎える百周年に向けて「知の新世紀を拓く」をスローガンのもと様々な事業を展開していきます。



2007年の10大ニュース

No. 1

「百周年記念事業推進会、同推進会東京部会・同推進会関西部会」設立

2007-2-28 , 7-26 , 11-06

No. 2

東アジア環境問題プロジェクトチームが発足 2007-09-25

No. 3

水素材料先端科学研究センター研究棟開所式 2007-11-09

No. 4

株式会社日本格付研究所における財務格付について最高の「AAA」を取得 2007-03-30

No. 5

大学サミット・イン・九州2007 2007-10-27,28

No. 6

九大・CNRS・プロヴァンス大・阪大及び核融合科学研究所による協定調印 2007-10-22

No. 7

UCLAと学术交流協定を締結 2007-05-31

No. 8

『QUEST-MAP』を策定、大学改革を加速 2007-06-08

No. 9

各機関との連携進む（佐賀県、西日本新聞、NHK、釜山大学校）

No. 10

カリフォルニアオフィスから遠隔講義 2007-10-02